

第5回キンボールワールドカップ2009体験記

《参加国》

【シニアワールドカップ】

カナダ、ベルギー、スペイン、フランス、スイス、日本（男女）
ドイツ、デンマーク（男子）

【ジュニアワールドカップ】（13歳～14歳）

カナダ（ケベック・オンタリオ）、ベルギー（ブリュセル・オーベル）



↑ 出発式：成田空港にて

《旅程》

10月25日（日）全国各地から選手・スタッフたちが成田空港に集まります。

15：15 集合。大阪伊丹組が飛行機トラブルで遅れる。先にチェックインを済ませる。

合流後、高見団長挨拶。総勢30名。（後日選手1名、宝塚市青年会議所1名が合流）

一時解散して搭乗ゲート前に集合。

カナダ・トロントまで約12時間のフライト。トロントから乗り換えでモントリオールまで約90分のフライト。外気温はかなり低く感じます。空港でP J氏らの出迎えを受け、バス（黄色のスクールバス）に乗ってトロワ・リヴィエール市に向います。フリーウェイを飛ばすこと約2時間、宿泊先“Hotel Gouverneur Trois-Rivieres”に到着（現地時間 10/25 夜）。まず会議室で大会事務局から簡単な説明会があり、IDカードやプログラム等をもらいます。また、選手団の紹介もありました。翌日の観光参加の確認があります。プログラムには試合・練習の日程はもちろん朝食場所の提案がされていたり、イベントの案内がフランス語・英語で掲載されています。

ホテルは街の中心街から5分程度のところにあり、大会参加国のほとんどがこのホテルに滞在しています。（ベルギーとドイツが近くの他のホテルだったようです）

荷物を部屋に置き、全員で中心街での夕食に向います。このとき23時。マクドナルドは閉店でした。近くのバーに入り、ハンバーガー等を夕食とします。外国到着日は、早寝して十分な睡眠をとって時差ボケ解消といきたいところでしたが、ワクワク気分です外泊もしたいものです。



↑ バーでの夕食

《ホテル》

選手団の部屋割り、事前に調整済です。選手は四人部屋。といってもダブルベッド2台です。

自分は当初カナダ人レフリーと同室の予定でしたが、P J氏と二人部屋です。

ロビーにはパソコン1台（このパソコンからブログを更新していました）、部屋でもインターネット環境が整っています。トレーニングルームはありますがスペースも狭く、自転車マシンやらが3台程度のお粗末なものです。外にはこじんまりとしたプールもあります。

深夜（明け方）まで騒いでいる面々がいたのにはビックリ。次の日廊下等で騒ぐなという張り紙がされていました。

ホテルと大会会場間にシャトルバス（黄色のスクールバス）が15分間隔で運行しています。

ロビーにあるボードにバスの運行表やイベントスケジュールが掲載されています。これらはフランス語と英語で標記されています。

《イベント》

朝7：00出発で世界遺産都市“ケベック・シティ”に向います。（実際には7：20発）参加料は15\$（CA）。各国の選手もいるのでバス2台にほぼ満席です。ケベック・シティは城下町。そのお城が今では高級ホテルになっています。いくつかのグループに分かれて、町散策します。

おやじ組はホテルのレストランでのんびり朝食をとりました。

13：15集合で帰路に着きます。

16時から大会会場で代表者会議です。日本からは男女コーチと上山氏が参加します。自分も事前に参加するよう指示されていたのでいきます。自分はその後レフリー会議と続きます。

大会会場は、“Centre Sportif Alphonse-Desjardins”です。時間があつたので施設の見学時間がありました。テニスコート、サッカーコート、アイスリンク、ラウンジバー等が屋内に備えられています。テニスコートに床を置き、キンボールコートを設置しています。

18：00からのカクテルパーティーにあわせ、他の選手等も会場入りします。

キンボールコートに土足関係なしに入り、甘めのカクテル（中身はわからない）を口にします。（右・写真）

19：00から隣の体育室でオープニングパーティーです。

着席で各国ごとにテーブルが分かれます。日本選手団はお揃いのジャパンユニホームですが、自分はないので中央区体指ジャージで臨みます。

ビデオで各国が紹介されますが、一緒にメジャースポーツ選手も選抜され挙げられていました。日本は相撲が紹介され、イチローと松井の名が出て、野球が人気と称されていました。ちなみにフランスはジダン（サッカー）デンマークのボルグ（テニス）などのビッグネームが上がり楽しめました。

22時に中締め。日本チームはここで退散します。



↑おやじ3/5人衆

後ろはセントローレンス川



《食事》

事前に支払った費用（約7万円）にモントリオール空港からホテルまでの交通費、宿泊費、シャトルバス代、6回の夕食代が含まれています。

6回の食事のうち、オープニングパーティーとさよならパーティー（ホテルで開催）も含まれます。残り4回の食事は、大会会場で提供されます。食事しながら観戦ができます。1回はbuffet方式の温かい食事で、残り3回はサンドウィッチです。朝食・昼食は自腹です。

《ショッピング》

基本的に一人での行動になります。

街の中心街といってもそれほど大きくないので、軽く歩ききれます。レストランはフランス語のメニューで敬遠しました。コーヒーショップもあります。値段は高めです。おすし屋さんもあります。自分のお気に入り、お肉屋さんのお惣菜やサンドウィッチでした。マクドナルドもビックマックセットで700円くらいだそうです。

歩いて15分くらいのところにスーパーマーケットがありました。選手たちはよく買い物しに行っていたようです。でかいクロワッサン（味はイマイチ）が10個で2\$でした。お土産のお菓子などを購入します。

タクシーで20分くらいのところにショッピングセンターがあったようです。

《試合方式》

3ピリオド先取方式です。3ピリオド取ると試合の勝者として3ポイント。2位が1ポイント。3位は0ポイント。

ピリオドの最後に同点の場合、5点先取の延長戦を行います。

各ピリオド7分。最後の1分は反則が起こったら時計が止まります。

ジュニアのゲームは、1ピリオド8分の3ピリオド制です。決勝のみシニアと同じ方式で行われます。

最高7ピリオドマッチになります。さらに延長戦が加わります。今回、ジュニアの男子決勝がもつれて1時間強のゲームになりました。唯一の7ピリオドでした。このとき主審でした。

《開会式》

初日シニアゲーム開始前に開会式がありました。

国ごとに紹介され選手が入場し、コート内を1周駆け回り、整列します。

セレモニー的には、国際キンボール連盟マスコット「N I K I」によるヒット式です。



↑ 開会式での日本チーム

《試合》

15：30から男女のジュニアのゲームが始まります。

初日の最終ゲームは22：15スタートです。終了は23時すぎになりました。主審を担当します。シャトルバスに乗り込んだのは、24時頃でした。また毎晩、会場3階にあるバーでアフターゲームパーティーがありました。2日目に参加します。自腹で飲むだけです。つまみは日本から持参した天津甘栗です。外国人には不評でした。

一般の観客は5\$（プログラム付）を払って観戦します。男子の決勝時は、ほぼ満席になっていました。3日目からコートを囲んで3面に仮設の観客席が設置されています。（最初は2面のみ）

シニアのゲームは、国歌演奏から始まり、国際大会であることを実感します。

《練習》

毎日午前中を中心に、体育室やテニスコートやサッカー場の3箇所を各国に割り当て、練習することが出来ます。時間は1時間と短いものです。日本代表チームにカナダのコーチがアドバイスに入っていました。

《表彰式》

競技終了後、コート内でメダル授与式があります。

レフリー6名の功績を称え、盾の授与。（右・写真）

男女別守備部門、攻撃部門、総合の最優秀選手の発表と盾の授与。

ジュニア&シニア1位から3位の表彰です。



《イベント》



ランチ会（20\$）や St-Quentin Island 観光（15\$）といったバスで行くツアーや大会会場を使って、サッカー大会やキンボールミックストーナメント大会（ともに無料）が開催されていたようです。

←左写真は、オープニングパーティーの舞台。

さよならパーティーは、ホテルで開催されました。（右・写真）
みな思い思いに交流しています。19時からディナーが始まり各国の感想を代表（日本は石川男子主将）がスピーチします。
22時から3時の予定でパーティーが続いていたようです。



↑ 魚河岸手拭いをプレゼント

《帰国》

さよならパーティーがまだ続いている中、朝4時（サマータイムが解除になり1時間早まった）にホテルロビー集合。

5時のバスでモントリオール空港へ向う予定でした。しかし連絡ミスで2時間ロビー待機となってしまった。

空港でチェックイン。しかし、トランクの重量オーバーで1万円の課税。MAX32kgで約23kgオーバーは課税対象ということでした。

トロントから成田は偏西風のため13時間強のフライトとなります。長い。軽食を含めて3回の食事です。カップヌードルがおいしく思いました。

成田荷物検査場にて、見た目だけで判断されていたようで時間がかかったメンバーもいました。ロビーにて解散式。